

# 静かな空

連絡先 742-2602 山口県大島郡周防大島町油宇 福田忠邦 Tel+ Fax: 0820-75-1045

戸村良人 カメラの眼(5月18日)

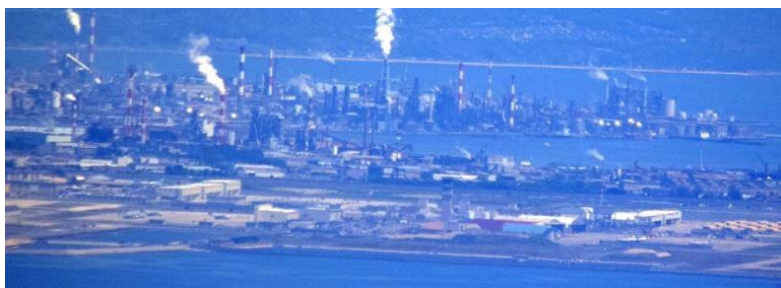
## 五月晴れ 文珠山頂上は軍事演習場



9:30 標高 662.7 メートルの文珠山展望台に着きました。  
麗しき五月晴れの空です。



10:17 海上自衛隊 P-1 対潜哨戒機 (厚木基地)  
5502 番機がきました。文珠山頂のカメラとほぼ  
同じ高度 (662 メートル) を飛行しています。



10:58 岩国基地 米海兵隊  
KC-130J 空中給油機スーパ  
ーハーキュリーズ(岩国基地)  
4 機見える。海自駐機場に海  
自 US-2 救難飛行艇、EP-3  
電子戦データ収集機、海自  
UP-3D 訓練支援機、OP3C



画像データ収集機です。

⇐左

13:35 海上自衛隊 U-36A 訓練支援 (岩国基地)  
06 番機 文珠山のすぐ上を飛びました



13.40 米海兵隊 F/A-18D ホーネット戦闘  
攻撃機 (岩国基地) DT 03 番機, 06 番機



13:40 米海兵隊 F/A18D ホーネット戦闘攻撃機 DT 03 番機 06 番機は文殊山の上で方向転換、岩国基地方向に飛んでいきました。しかし岩国基地に着陸せず・・・



13:43 旋回して 2 回目でまた文殊山にきました。文珠山上空は米軍機と自衛隊機の演習場になっているようです。



15:44 海上自衛隊 UP-3C 画像データ収集機（岩国）34 番機  
（カメラより低い高度で飛行している）



16:00 海自 EP-3 電子戦データ収集機（岩国）71 番機

17:02 に帰途につき、1 時間余で帰宅できました。

2017 年 5 月 19 日（金） 14:41 **またまた岩国基地に黒煙！**



5 月 12 日の政府回答には、平成 28 年度に「消火訓練」施設ができて「黒煙発生が軽減」とあり、私たちも 11 月 23 日以後の写真は見えていませんでしたが、黒煙を見た人があり、5 月 19 日午後、再び黒煙の写真が撮影されました。以前より小規模ですが、「廃油焼却」だろうとの疑念は、やはり消えません。

## 伊方原発運転 即 やめよ



チェルノブイリ原発事故から 1 年か 2 年後と思うが、4 人でドライブしながら、伊方原発を見に行き、道路下の原発をながめていたら、警備員達に遠巻きにされた。

「これはろくな物じゃないのう」  
「俺んちの真正面に向けて建てている」  
「瀬戸内海に建てさせるなんて、誰も反対しなかったのか？」

チェルノブイリ爆発事故では、出力の上下実験の最中に爆発したとされている。これにこりないで伊方でも、実験炉ではなく、営業炉でいきなりやり始め、当時、暴発しやすいといわれたプルトニウムとウラニウムを混ぜた燃料（モックス燃料）を

使い始めたという。

「なんとも精神衛生に悪いのう」

熊本地震がだんだんと中央構造線断層の方に近づいている。断層のすぐ近くにある伊方原発はただちに停止させなければならない！

20 歳のころ、友人が学校の図書室から借りてきた本を見せて「この本を読んでみろ」といった。「原子爆弾」の論文。表紙がボロボロにすり切れている。4 人の学者の共著で、その一人の先生が、ホンコン風邪のヴィールスが放射能で変異したものと書いている。電子顕微鏡で写された 2 枚の写真の風邪ヴィールスは、円形の周囲に突起が出ている。突起の数が違う。当時、米国・ソ連二国が核実験を競い合い、放射能を撒き散らした。

福島第一原発事故で、放射能が地球の海や大気をよごしてしまった。ヴィールスの変異。広島の被爆者の染色体がことごとく壊れていた。これ以上、放射能を地球上にまきちらす、目先の儲けのための伊方原発運転を、即、やめよ！！

周防大島町民

**伊方原発から大島まで 50km**

## 米軍岩国基地艦載機移駐について

周防大島町議会議員 田中豊文

田中豊文 ①騒音増大が予想されるが、町民の安心・安全を確保するために、国に対して言うべきことを言う事は、最低限の責任だと思うが、町長の意思を問う。  
②騒音測定器の増設や苦情相談窓口の設置によりデータの蓄積を図り、国に対して騒音被害軽減を要求していく事が必要と考えるが、町の

対応方針について問う。

答 ①騒音区域の拡大については、国に対して懸念を表明している。  
②騒音測定器の増設は国に要望し、苦情は総務課で対応している。

(周防大島町議会だより 第49号から)

苦情窓口 総務課 Tel:0820-74-1000

## 政府は岩国市民の要望 43 項目を受入れていない

2008年、岩国市自治会連合会が基地災害をなくするための要望を市に提出、市長は43項目に整理して防衛省等に提出しました。「瀬戸内ネット」の質問にたいして、市長は「すべての項目、43件」を実現しなければ艦載機移駐を検討することはできない」と答えました。

今年5月の政府回答で市長は「達成または進展中」8割と発表しましたが、「達成」14項目、「進展中」8項目は、要望に対応しておりません。「応えていない」主な項目を次にあげます(防は防衛省回答の要旨。

●は「瀬戸内ネット」の批判要旨)

「達成」としているもの

①警察及び海兵隊による警らの強化。

防適切な措置をとるよう伝える。米軍人が約1km徒歩巡視している。

●基地に逃げ込んだ米兵を日本警察は逮捕できず、市民は安心できない。

②街路灯、防犯カメラ等を設置する。

防市と調整していく。

●必ず設置することを約束させるべき。

⑦米軍構成員の外出や飲酒を制限すべき。

防外出制限や基地外飲酒を制限している。

●殺人訓練受ける米軍の犯罪は止まない。

⑩容疑者の拘禁移転で地位協定見直しせよ。

防見直しでなく運用の改善でいく。

●要望通り「見直し」すべきである。

⑪騒音軽減対策し、消音施設を増設する。

防沖合1km移設。一部区域以外は改善。

●由宇など、一部地域で爆音が増大する。

⑨恒常的離発着訓練施設を岩国に作らない。

防岩国基地周辺にFCLP施設を作らない。

●岩国で訓練する可能性あり安心できず。

⑩岩国でFCLPを実施しないこと。

防NLPは硫黄島、岩国でもNLP可能。

●FCLPをしないと確約していない。

「進展中」としているもの

⑬早朝・夜間、土曜日、日曜日、祝日等の飛行とエンジンテストを全面禁止する。

防21:00-7:00の訓練飛行は制限する等々。

●要望どおり「全面禁止」すべし。

⑮市街地や産業地域の上空を飛行しない。市街地飛行は1219m以上とする。

●由宇町は1219m以上飛行は不可能。

②防音工事対象区域を75W以上とする。

防80W以上とする。

●要望どおり「75W以上」とすべし。

## 藤村英子「まだ言いたいことがあるんよ」 2016年10月刊

「大島の静かな空を守る会」の精神的な指導者であった藤村英子さんが、本年4月2日、なくなられました。静かな世界における永遠の平安を祈ります。

藤村さんは、最後に著書『まだ言いたいことがあるんよ』を私たちに遺してくれました。2014年10月10日の誕生日に、米寿記念として刊行された著書『言いたいことがあるんよ』の続編として、2年後に卒寿記念として刊行されたのです。

前編と同様、著者が長年書き続けてきた新聞投書を主体として、年度順に編集した評論集で、前編には1994年から2004年まで、続編には2005年から2016年まで、著者67歳から89歳までのものが収録されています。個人的な話題もありますが、一貫しているのはその時時の社会評論です。

社会評論の常として、論題はあらゆる方面にわたりますが、とくに日本の政治にたいする批判が主軸になっています。くりかえしとりあげられる論題は、平和憲法、戦争、沖縄戦の悲劇、南京大虐殺、朝鮮人強制連行、従軍慰安婦、艦載機移駐、井原岩国市長、沖縄県辺野古、名護市長選挙、北朝鮮拉致問題、上関原発、福島原発、教育基本法、NHKの報道規制、国政選挙、歴史教科書などで、ウラからオモテから論じつくしています。

とくに力を入れたのは沖縄戦争と沖縄問題にたいする政府の不当な扱

いで、「これ以上沖縄を裏切ってはならない。沖縄を苦しめてはならないと切に思う」という訴えがくりかえし出てきます。戦時中の朝鮮との関係と従軍慰安婦問題に対しても、決して追及の手を緩めることはしませんでした。

著者はつねに自分の考えを前面に出して議論しますが、ワイツゼッカー大統領、井原勝介、太田昌秀元沖縄県知事、山戸孝、新藤兼人などの言動をとおして自分の信念を表明することもしています。一方、当初の普天間の県外移転の方針がくずれた民主党鳩山首相、沖縄県民の民意より日米合意を重視した菅首相にたいする評価は大きくゆれています。

評論はすべて明快で、読む人の心にストレートに入り込み、ああ私もそれが言いたかったのだ、と思わせる表現力も群を抜きます。

「この季節になると、一面の蓮華畑で遊んだ記憶がよみがえる。蓮華畑はやがて青々とした水田となり、秋には黄金色の稲穂がゆれ、晩秋ともなれば籾を焼く煙が棚引き、放たれた鶏が落ち穂を啄んでいた。ミレーの絵を思わせる風景だ」

「取ってきたひじきを前にくこの海でただで採ったひじきを、お金にしていんじゃないか」との祝島のおばちゃんのことを、私は涙で聞いた。この海を埋め立てさせてはならないと切に思う」

「沖縄国際大学名誉教授、金城重明氏からお話をきいた。く私はこの



場で、兄と共に、母と妹、弟の三人を手にかけた」と]

(再編交付金について)「どうせ【艦載機が]来るならもらわにや損々で、周辺自治体まで民意をそっちのけで目先の金に目がくらみ、容認する始末だ。なんとさもしいことよ。正義を貫く誇りは一体どこへ行ったのか」

「先日、米軍海兵隊員養成の様子がテレビで報じられた。平均19才の若者に「切れ、殺せ」の言葉を浴びせているのを見て、まるで殺人鬼に仕立て上げるものではないかと、慄然とした」

大地に立つ民衆の立場から、藤村さんの仮借ない筆鋒が、天空の権力者に向けられます。これを扇動的とみる人があるかもしれませぬ。しかしよくよくみると、最後はいつも私たち隣人に呼びかけています。

「言うこととすることが矛盾している人を首相に選んだのも結局は私達なのだ。首相や議員の質を嘆くより、私達がもっと真実を知って賢くならねばと思う」

「私達の生活や命を脅かすことに対しては、しっかりやかましく言おうではないか」

「沖縄県民の心を、これ以上踏みにじってはならないと思う」

「うまい言葉にだまされず、真実を知って戦争しないために行動したいものだ」

「今一度、じっくり憲法を読んで素晴らしさを皆で再認識しようではないか」

藤村さんはやはり教師だったので

す。そのことは、かつての教え子が毎日のように入れ替わり立ち代わり藤村宅にやってくる、料理の手伝いや、部屋の片づけなどをしていたことにも表れています。『静かな空』の郵送のあて名書きも、級友中川節子さんや教え子たちの仕事になっていました。

本書のいたるところに「理不尽」という言葉が出てきます。広辞苑には「道理を尽くさないこと」とあります。彼女は自分が困ることについてモノを言うことはほとんどありません。しかし道理の通らないことはどうしても見逃せず、やむにやまれずペンをとったのです。

「参議院で否決された新テロ法案が衆議院で再可決成立した。憂慮に堪えない気持ちでペンをとった」

本書第二部は短歌と随筆です。編者藤村美千枝さんが、「政治的な意見ばかりのようだ」と言ったので、ノートに書きためていた短歌を収録したそうです。これでやっと人間藤村英子の実像が見えてきます。

第一部の最後は「でも今は、私忙しいの。ああもう今日が暮れてしもうた」で結ばれています。最後まで忙しかった藤村さんも、本書刊行からちょうど半年後、悩み、悲しみに満ちたこの世に別れを告げました。

先に「守る会」は、シンフォニア岩国前で掲げた横断幕「爆音はもう耐えられない 周防大島」の筆を揮った小山惇男さん(2013)、長年代表委員をつとめた下中嘉六さん(2016)を失い、今静かに次の進路を模索しています。 河井弘志